

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.9.17)

第5次リストの発表など

次の要領で失踪者第5次リストの発表及び記者会見を行いたいと思います。関係各位にはご協力をよろしくお願い申し上げます。

第5次リスト発表 9月24日(水)

12時メールニュース送信開始、13時頃から資料配付、写真公開
(場所等詳しくは別途ニュースで流します)

記者会見 9月25日(水) 13:30～14:30 於：友愛会館

内容 (1) 9.17から1年間、調査会設立後8ヶ月の会としての概括
拉致の全体像等調査を通じて明らかになったことについて
(2) 前日発表したリストについての補足
(3) その他

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.9.19)

来週の予定について

既にお知らせした失踪者第5次リストの発表及び記者会見について、下記の通り行います。関係各位にはご協力をよろしくお願い申し上げます。

9月24日(水)

失踪者第5次リスト(約10名)及び1次から4次まで発表した失踪者の中で拉致可能性の高いと思われるケースの一部に関する発表

12時メールニュース送信開始、13時頃から資料配付、写真公開(於調査会事務所)
メールニュースで流す資料はご家族の連絡先を抜いてあります。報道関係の方などで連絡先の必要な方は事前にメールにてご連絡いただければ、連絡先を入れたものをメールニュースと並行して流します。

9月25日(水) 記者会見 13:30～14:30 於:友愛会館1階A会議室(港区芝)

内容 (1) 9.17から1年間、調査会設立後8ヶ月の会としての概括

拉致の全体像等調査を通じて明らかになったことについて

- (2) 前日発表した拉致可能性の高い事件及び5次リストについての補足
- (3) その他

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.9.24)

失踪者第5次リスト・拉致の可能性の高い失踪者のリストの発表について

特定失踪者問題調査会では本日、失踪者リストの第5次発表（従来と同じ「拉致の可能性が完全には排除できないリスト」・通称ゼロ番台リスト）と拉致の可能性が高いと思われる失踪者のリスト（通称1000番台リスト）の発表を行いました。ゼロ番台リストは添付ファイル（Excelで作成したタブ区切りテキストファイル）です。1000番台リストについては下記の通りです。二つのリストが一緒に出ますので分かりにくい点があるかと思いますが、後者は7月30日の第4次発表のときに合わせて発表した6人と同じ扱いになります。

北朝鮮による拉致事件の疑いが濃いと思われる失踪者

（1000番台リスト・平成15年9月24日発表）

特定失踪者問題調査会

現在調査会には360人を超える失踪者のリストがあり、うちこれまで拉致の疑いが濃いと発表した失踪者は加藤久美子さん・古川了子さん、高敬美さん、高剛さん、金田竜光さん、松本京子さんの6名です。今回これに次の方々を加えます。調査会ではリストに入れた失踪者（公開非公開を問わず）には登録順の通し番号を付けてきましたが、拉致の疑いが濃いとした方々はこの番号に1000を足しています。混乱を避けるため、これまでの「失踪者」リストに非公開者を加えたものを「ゼロ番台リスト」、拉致可能性が高いと思われる方々のリストを「1000番台リスト」と通称します。今回「1000番台リスト」に加えるのは以下の方々です。

大屋敷正行さん、大澤孝司さん、国広富子さん、新木章さん、山本美保さん、秋田美輪さん

ただし、調査会の能力からして現状で全てのケースを均等に調べ、順位をつけて可能性の高いものから発表することはできません。したがって「ゼロ番台リスト」の中には今回拉致の疑いが濃いとした6人を含む「1000番台リスト」と同程度ないしより拉致可能性が高いのではないと思われるケースも存在します。調査会では今後これまで同様の「ゼロ番台リスト」の発表可能なところから発表していく予定です。

また、私たちは当初新たな拉致の証拠となるものを見つけていくことを目標として調査を行いました。多くの事件が長期間を経ているため、警察と同様のやり方で新たな証拠を見つけることは極めて困難であると認めざるを得ません。また、その警察自体、10件15人のうち主体的に拉致を明らかにしたのが久米裕さんだけであり、その久米さんの事件も事実上封印してしまったという現実があります。この活動は拉致をされている北朝鮮が長期的かつ極めて広範囲に拉致を行っているという前提のもと、総合的な見地から判断して参ります。今回の6人についても同様です。なお、山本美保さんと秋田美輪さんの拉致については対象選定の段階もふくめ何らかの関係があるものと推定されます。

今回発表した 6 人に関するメモ（敬称略）

大屋敷正行（おおやしき まさゆき）

生年月日：1952.12.5

失踪時期：1969.7.27

失踪場所：静岡県沼津市大瀬崎海岸

当時の住所：東京都江戸川区

当時の身分：高校 2 年生

状況：友達 7 ～ 8 人と大瀬崎海岸へ海水浴に行く。夜中にトイレに行くとき外へ出たまま戻らず。枕元に腕時計、財布、免許証など残したまま。家出や自殺の理由がなく、楽しい高校生活を送っている矢先のことだった。

本人の特徴：身長 165 ～ 168 センチ、やせ型、色弱、温厚で素直、おとなしい性格。髪はくせ毛でぼさぼさした感じ。優しくいつもほほえんでいる感じ。写真を撮るときは歯がちらりと見える。自分の気持ちをはっきり人に伝えたり、すすんで新しいことに挑戦するタイプではなかった。卓球部に所属し、強い方だった。運動神経はとてもよかったようだ。目は良くなかった。

大澤孝司（おおさわ たかし）

生年月日：1946.6.21

失踪時期：1974.2.24

失踪場所：新潟県佐渡郡新穂村

当時の住所：新潟県佐渡郡新穂村

当時の身分：新潟県佐渡農地事務所勤務（昭和 47 年 9 月から）

それ以前は小出の農地事務所に勤務（3 年 3 カ月）

状況：自宅独身寮から約 400 メートル離れた飲食店で夕食を済ませ、知人宅に寄った後行方不明。当時事務所には 50 ～ 60 人が勤務、うち 15 ～ 20 人程度が本土から単身赴任で来ていた。失踪時期は観光はオフシーズンだった。そのため最も忙しい時期に拉致された曾我さんと違い警察もかなり大規模に捜査してくれた。小出の事務所では失踪してからまもなく「あれは北朝鮮にやられたのではないか」との話でもちきりになったが、やがてびたりと止んだという。

元の同僚の話「失踪の 2 ～ 3 日前一緒に船で新潟から帰ってきた。船中では飲む話、食べる話などをしていて自殺や失踪のそぶりはまったくなかった。マッチは寮の前あたりに落ちていたとのこと」

国広富子（くにひろ とみこ）

生年月日：1952.2.9

失踪時期：1976.8.2

失踪場所：山口県宇部市の自宅付近

当時の住所：宇部市笹山 1 5 区笹山アパート

当時の身分：看護婦

状況：母親にたばこを買いに行くのを頼まれ、300 円のみを持って夜 8 時半頃家を出てそれきり消息不明。新しい病院に勤務し始めたばかり。

本人の特徴：152 センチ、48 キロ、左こめかみから頬にかけうす茶色のあざ（化粧で隠れるほど）

新木章（あらかき あきら）

生年月日：1947.10.16

失踪時期：1977.5.21

失踪場所：埼玉県川口市の自宅を出たまま行方不明。

当時の住所：川口市

当時の身分：銀行員（オンライン化の担当）

状況：家を出るとき「午後 6 時か 7 時には帰る」と言って出かけた。財布しか持っていない。財布には免許証、クレジットカードが入っていたが、更新がされていないし、カードは使っていない。

本人の特徴：中肉中背、眼鏡使用、当時黄色のチェックのシャツにジャケット着用。

山本美保（やまもと みほ）

生年月日：1964.3.3

失踪時期：1984.6.4

失踪場所：山梨県甲府市の自宅を出て以来消息不明

当時の住所：山梨県甲府市

当時の身分：大学受験生

状況：図書館に行くと言って出かけたまま消息不明に。バイクは甲府駅前に放置されていた。失踪 4 日後、新潟県柏崎市荒浜海岸にセカンドバックが落ちていたとの連絡（本人のものと確認）。失踪半年後の 11 月 6 日から無言電話が 4 年半ほど続く。無言電話はほとんど数秒で切れるものだったが、失踪から 3 年 4 ヶ月後と 3 年 6 カ月後の 2 回の電話は 10 ~ 15 分ほど続き、相手はじっと聞いている様子だった。3 年 6 カ月後の電話はすすり泣くような声が聞かれた。

本人の特徴：身長 160 センチ、体重 51 キロ。左目の下に 3 針縫った跡。左手にしもやけの軽いケロイド。靴のサイズ 23.5 センチ。

秋田美輪（あきた みわ）

生年月日：1964.1.25

失踪時期：1985.12.4

失踪場所：兵庫県神戸市の大学校門

当時の住所：兵庫県川西市

当時の住所：大学 4 年生（国文科）

状況：大学で午前の授業を受けた後、1 時過ぎに学食で友人と食事をとり校門近くで友人と別れた。夜 8 時過ぎに友人宅へ泊まるとの電話が家にある（実際には泊まっていない）。翌日朝 8 時 15 分兵庫県警城之崎署から竹野町弁天浜で本人のバッグ発見と

の連絡。当時は自殺とされたが、何も見つかっていない。バックの置いてあったところから海岸に 10 メートル位足跡があった。発見される前に雨が降ったがバックも近くにあった本人の靴も濡れていなかったという。地形や潮の流れから入水自殺であれば遺体が上がるはず、竹野浜、竹野駅、城崎駅で目撃者がいなかった、残されていた急行券に不審な点がある。その急行券とは、大阪駅発行で、和田山駅まで 150 キロが有効範囲だった。遺留品が見つかった浜の最寄りである竹野駅まで 40 キロも離れている。竹野へ行くには和田山で乗り換えなければならない。時間的に乗車した可能性の高い「丹波 3 号」は城崎に、「だいせん 3 号」は城崎・竹野に停車する。また当時の急行料金は 150 キロまでが 900 円、200 キロまでが 1000 円で、100 円の違いしかない。遺留品には 18000 円の現金があり不自然。また、急行券にはパンチ跡、検札跡がない。このように不審な遺留品があったにも関わらず 2 日で捜査が打ち切られ入水自殺とされ、警察の初動ミスが疑われる。

本人の特徴：身長 155 センチ、体重 43 キロ、両眼とも眼鏡をかけて 1.2。

記者会見

9 月 25 日（木） 13:30 ~ 14:30 於：友愛会館 1 階 A 会議室（港区芝）

- 内容 (1) 9.17 から 1 年間、調査会設立後 8 ヶ月の会としての概括
拉致の全体像等調査を通じて明らかになったことについて
(2) 前日発表した拉致可能性の高い事件及び 5 次リストについての補足
(3) その他

失踪者第 5 次リストの訂正

お送りしたリストの中で富山県屋木しのぶさんにつき、失踪時期の記載が昭和 44(1969)年となっていましたが 43 年の誤りでした。お詫びして訂正します。

昭和 41 年 3 月	地元の高校を卒業
同年 4 月	東京の美容学校入学
昭和 42 年 3 月	同校卒業
同年 4 月	東京の美容院に勤務
同年 10 月頃	入善に戻り地元美容院に勤務
昭和 43 年 1 月中旬	失踪（5 次リストで昭和 44 年 1 月 18 日と発表していますが、関係者によって若干日にちに違いがありますので中旬としておきます）

前にお送りしたニュース 39 号及び 40 号で一部に文字化け及び読めないなどのトラブルが起きました。ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

必要な方はメールをいただければ返信でお送りしますのでご連絡下さい。

調査会では本日記者会見を行い、以下の文書を発表します。

現時点における拉致問題の全体像に関する見解

小泉総理の訪朝から1年が経過した。この間政府未認定者であった曾我ひとみさんの拉致が明らかになったことで政府認定者以外の拉致に関する関心が高まり、とりわけ原因不明の失踪をした家族を持つ人々が多数警察や内閣府支援室、そして救う会へと問い合わせをするようになった。これに対処するため、1月に私たちの調査会が設立され、微力ではあるが、これまで8カ月にわたって調査を続けてきた。私たちのところにご家族から調査依頼が寄せられた失踪者は310人余、独自に情報を収集した事件が約50人、あわせて360人余にのぼる。これらのケースを概観した中間報告は去る7月30日の記者会見ですでに発表済みだが、9.17から1年経たのを期に拉致の全体像について見解を明らかにし、各位のご協力を求める次第である。

北朝鮮による日本人拉致は昭和28(1953)年の朝鮮戦争休戦後、長期にわたって行われており、今後も行われる可能性がある。調査会にある失踪事件の中で拉致可能性が強いと思われる事件も時期・場所の両面で広範に分布している。韓国人の拉致が朝鮮戦争中の83000人にはじまり直近で平成12(2000)年まで行われていることから分かるように、北朝鮮にとって拉致は通常的行為であり、一時期特定の目的だけで行われたものではない。日本人の拉致被害者総数がどれほどかは未だ明らかではないが、少なくとも100人を下ることはないと思われる。その理由は次のようなものである。

- ・ 4次までの失踪者165人の発表で、報道関係をはじめとする各方面のご協力にもかかわらず、本人が日本国内にいることが確認できたのは2名に過ぎず、大多数は新たな情報すら寄せられていない。
- ・ 当初拉致の可能性が薄いと思われた事件ですら調査にともないその疑惑を深めざるを得ないケースがあり、逆に絶対に拉致ではないと確信をもてるケースはほとんどない。
- ・ 同時期に同様の(例えば高校生、若い女性、カップルなど)失踪が集中しているケースや同じ高校・大学の卒業生・在学生の失踪などがいくつも見られ、また、共通の偽装工作と思われる手口も見られる。
- ・ 当然ながら、ご家族が拉致を疑いながら調査会に調査依頼をしないケースも少なくないと思われ、また、原勅晁さん、久米裕さん、田中実さん、金田竜光さんのように家族親族との関係が希薄な人を標的にした拉致も相当数あると考えられる。これらは当然リストには入ってこない。

長期的かつ広範囲に自国民を多数拉致されたことから考えるとき、北朝鮮による拉致はテロというより「低烈度の戦争」とも言えるものであり、北朝鮮の国家目標が変わっていない現状からしてそれは今も続いているはずである。おそらくはこの現状を知っていたであろうわが国の歴代政権がなぜこのような大規模かつ悪質な主権侵害を放置してきたのか

はまだ不明だが、少なくとも今後放置し続けることは許されない。「人道問題」という言葉でこの問題の本質を国民の目から隠すことがあってはならないのである。また、日本国民のみならず、朝鮮総連系をふくめ相当数の在日韓国・朝鮮人もいわゆる「帰国事業」とは別に拉致をされている可能性があり、この問題もけっして無視されるべきではない。

言うまでもなく、拉致事件の解決には全ての拉致被害者の帰国が前提である。これは現在政府が認定している未帰国被害者 10 名にとどまるものでないことは言うまでもない。偽計によって自分の意志で北朝鮮に入り出られなくなった人まで含めて、すべての人の現状を回復するということである。また、拉致の中には前述のように、周囲との関係が希薄な人がねらわれ拉致されたケースも相当数あると推定され、その場合は北朝鮮の中に入って調査及び救出を行う以外の方法はない。

以上のような状況から考えた場合、証拠を固めて立件するという警察の通常のやりかたにのみ依拠した対応では大多数の拉致事件を解明することはできない。そもそも、10 件 15 人のうち警察の主体的捜査によって明らかになったのは久米裕さんの事件だけであり、その事件すら実行犯逮捕という石川県警の功績は封印されてしまっている。したがって大部分の事件は北朝鮮にとって「運悪く」発覚した、氷山の一角と言っても過言ではない。

また、失踪事件のほとんど全てが事件当初北朝鮮による拉致を疑われていなかったためにその方面の捜査がなされておらず、なおかつ多くの事件がすでに長期間を経て事件によっては関係者の記憶すら不確かになってしまっている。

したがって、警察が拉致と認めることを前提とし、外務省の交渉によって北朝鮮側に帰国を求めるといった現状の対応が今後も続けば大多数の拉致被害者は北朝鮮でその生命を終えてしまわねばならない。拉致問題の解決のためには日本国が独裁国家に奪われた国民を奪還するという意志を明確に示し、実行することが必要不可欠である。それは政治家や官僚のみに任せておける問題ではない。救出の責任は私たち国民すべてに存在する。そしてその実現は日本人拉致被害者のみならず在日韓国・朝鮮人拉致被害者や韓国人拉致被害者の救出にも、在日朝鮮人帰国者の人権擁護にもつながり、さらには独裁体制の下で苦しむ大多数の北朝鮮国民の救援にも大きく貢献する。各位のご協力を切にお願いする次第である。

平成 15 年 9 月 25 日
特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

< 付記 >

今後調査会として、拉致の疑いが濃いと発表したケースをはじめ失踪者のご家族に対するフォローを強化する。

2 月に内閣府支援室・警察庁・海上保安庁・公安調査庁に対し要請を行い、4 機関に外務省も含めた回答を同月末受け取っているが、今後は邦人保護等の観点から防衛庁も含め政府の積極的対応を求めていく。